

編集後記

2021 年度より歴史ある『眼科』の編集委員を務めさせていただくことになり、大変光栄です。よろしく願い申し上げます。思い起こせば、研修医当時はこの雑誌の「特集」でずいぶん勉強させていただきました。また、インターネットによる文献検索が普及していなかった時代、この雑誌には、『○○の展望』という、国内外の専門領域の文献を年度ごとに網羅する綜説がありました。私も弱輩ながら 1994～1998 年度までの 5 年間「水晶体の展望」を担当させていただきました（最後の 2 年は中村邦彦先生と共著）。担当開始当時、“勉強する習慣”というものが全くなかった私は、これを担当したことにより、毎年数か月にわたり玉石混淆の多数の文献をすべてコピーし、読み、分類し、総括するという作業に追われました。今考えてもまさに“苦行”の日々でした。現在のようなオンラインで一瞬にして必要な文献を検索し、サマリーまでチェックできる時代と比較すると、なんと効率が悪かったかと思いますが、今振り返るとこの経験はいろいろな意味で私にとって大きなプラスだったと思います。今更ながらですが、当時の編集委員の先生に感謝申し上げます。

さて、今号の特集は「視神経疾患と緑内障性視神経症の鑑別」で、臨床医にとっては、日々遭遇し、悩む、難しいテーマです。本特集では、神経眼科と緑内障という異なる専門領域の立場からみた鑑別のポイントとともに、圧迫性視神経症や虚血性視神経症との鑑別が詳細に解説されています。また、綜説では「原因のよくわからない羞明の考え方」というテーマで多くの鑑別疾患を挙げていただいています。どちらも日常臨床にすぐに役立つ知識が満載です。ぜひご一読ください。

この 7 月号の編集後記は、2021 年 6 月末に書いています。COVID-19 の影響はいまだ収束せず、特に東京ではリバウンド傾向、日本はオリンピックの開催や観客動員の有無など、多方面で意見が二分されています。このようななかではありますが、皆様におかれましては、くれぐれもご自愛くださり、お健やかに過ごしてください。今後ワクチン接種が少しでも早く進み、平和に暮らせる日々が戻ることを祈念して、編集後記とさせていただきます。

（根岸一乃・記）

編集：富田剛司・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸・坪田一男

「眼科」 第 63 巻 第 7 号 7 月号

2021 年 7 月 5 日発行（毎月 1 回 5 日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間講読料金

定価 46,310 円（本体 42,100 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。